
All to the dark

グッピー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

All to the dark

【Nコード】

N1114E

【作者名】

グッピー

【あらすじ】

ある日今はやっている占いをしたコナン。その占いは100%当たるらしいがコナンは信じなかった。そしてその占い通りの未来になってしまう…

Case 1: What-if games

「ねえコナン君。これやってみない？」

「それって占い？」

「うん。未来予想っていう名前の占いなんだ。名前と生年月日と血液型を入力して占うのボタンを押すと…ホラ。」

「ホントだー。（えーっと蘭様、あなたの未来は99%あなたが好きな人と結ばれ幸せになるでしょう、かー。んじゃ残りの1%は何だ？）」

「ねえコナン君もやってみたら？」

「うん。…あ、出た。」

「なんて書いてあるの？」

「あなたはこれから波乱万丈な人生を送るでしょう、だって。」

「へー。すごいね。」

（真の姿に戻る日もそう遠くないかも…ちなみに新一でやったら…仲間を裏切り闇の世界に入るかもしれない。愛する人を敵に回すかも…か。ま、オレは占いなんか信じねーけどな）

しかしその占いは当たってしまうのだった。

C a s e 1 : W h a t - i f g a m e s (後 書 き)

W h a t - i f g a m e s 〓 未 来 予 想

ピリリリリ、ピリリリリ

「ハーイ、久しぶりね。」

「ジョ、ジョディ先生！？どうしたの？」

「コナン君、ついに組織の場所がわかったわ。」

「ホント、ジョディ先生！！」

「でもまだ組織に突入しないわよ。」

「わかってるよ。作戦を立てなきゃいけないもんね。」

「そうよ。それよりも何でコナン君もあの組織と戦いたいのか教えてくれるかしら。」

「いいよ。ボクもいずれ言わなきゃいけないなって思っていたしね。でも教えるのはこの戦いが終わってからだよ。」

決戦の日

とうとうこの日がやってきた。コナン達とFBI達は組織のアジトの前にいた。

「…じゃあコナン君と哀ちゃんは何の薬のデータを取ってきていいわ。」

「ありがとう。」

「じゃあ…」

「ちょい待ちいや、オレも行くで。」

「服部！！オマエ何で…」

「オマエがああ探偵事務所にいなかったから姉ちゃんに聞いたんや…！」

「そして博士を問い詰めてあらざらい吐かせたってことだな。」

「よおわかってるやん。」

「わかってるのか、服部？もしかしたら死ぬかもしれないんだぞ？」

「そんぐらい覚悟しとるわ。それに一人でも多い方がいいやろ？」

「まーな…」

「じゃあ服部君は雑魚達をよろしくね。」

「よっしゃ、任せとけ！！」

「よし、みんなアジトに突入するぞ！！」

「オオ！！」

コナンは哀を守りながら薬のデータがある場所を探していた。

しかしコナン達を殺そうとしている人が次々と来る。

「（く、1人じゃ絶対どこかで灰原がやられちまう…どうすればいいんだ！！）」

コナンがそう思ったとき後ろで人が倒れてた。

「グハッ」

ドサッ

「え？」

「よっ、工藤。なかなか苦戦しているみたいやないか。」

「服部！！オメーの持ち場はここじゃねーだろ！！」

「あっちがすんだからこっちに來たんや。それにライバルのオマエに死なれたら張り合えんようになってオレが困るに決まってるやんか。」

「そ、そうだな。」

「んじゃあオレが攻める方に回るからオマエは出来る限りちっこい姉ちゃんを守れや」

「わかってる。灰原、オレのそばから絶対離れるな！」

「え、ええ。」

パシユ

「うつ!!」

「なんや工藤、負傷したのか？情けないやつぢやなあ。」

「ちよつとかすっただけだ!!」

「ふゝん、まあええわ。」

「（この二人なら組織を壊滅することができるわ!!）」

哀はそう思った。

C a s e 2 : D e c i s i v e b a t t l e w i t h o r g a n i z a t

評価、感想よろしくお願いします。

Case 3: The worst development

コナン達はずっと組織の下っ端達と戦っていた。しかし敵はどんどん増えて行くばかりである。

「（このままやったらこっちの方が圧倒的に不利や…どうすればええんや…そや…！工藤とちっさい姉ちゃんを先に…）」

ドン…！！

「わぁ…！！」

「きゃっ…！！」

「服部、何をするんだ…！！」

「ここはオレに任せて工藤とちっこい姉ちゃんはあるのを探しに行き…！！」

「サンキューな、服部…！行くぞ、灰原」

「ええ。」

「おい、あの二人のガキを捕まえろ…！！」

「待たんかい…！オマエらの相手はこのオレや…！！」

敵は平次がやつつけていなくなった。

そしてそのとき電話がかかってきた。

ピリリリリ、ピリリリリ

「ん？和葉からや。」

ピッ

「どないした、和…」

『平次く蘭ちゃんがさらわれてもった…！どないしよー。』

「えっ、姉ちゃんがさらわれた！？ホンマか、それ？」

「うん。アタシな、蘭ちゃんと園子ちゃんと一緒に買い物に行つてん。でな、アタシと園子ちゃんがトイレに行ったときに、さらわれたみたいやねん。」

『和葉、姉ちゃんをさらった人見てたか？』

「後ろ姿しか見てへんから、わからんけど金髪で長髪の人やったよ。確か黒い車に乗ってたわ…」

「（黒い車ってまさか…）和葉、心配せんでええで。ちゃんと姉ちゃんを探したるから。でも一応警察には連絡しとけ。」

『わかった。じゃあお願いな、平次。』

ピッ

「せや、工藤に連絡せな。」

ピパポピパポパペペ

プルルル、プルルル

「工藤早よ出る！！」

プルルル、プルルル

『お客様がお掛けになった電話は只今電波が届いていないか電源が切られて…』

「何でこんな時に電源切ってんねん！！しゃーない、工藤を探しに行くか！！」

「んじゃあ灰原はそっちの部屋をを探してくれ。オレはこっちの部屋を探すから。」

「ええ。」

「何かあったらこれ（探偵バッチ）で連絡してくれよ。」

「わかってるわよ。」

「じゃあまた後でな。」

―数分後―

まだAPTX4869は見つかっていなかった。

「クソッ、ここにもねーのか…」
ガチャッ

「後はあそこの部屋だけだな…」
そしてコナンは扉を開けた。

「コナン君!!」

「蘭：姉ちゃん。なんで、ここに…?」
「俺が連れてきたんだ。」

「ジン!!」

「ごめんね、コナン君…。」

「蘭姉ちゃんが謝ることないよ…。」

「話はそこまでだ。」

「うつ!!」

「蘭!!」

ジンは蘭を気絶させた。

「これからお前に二つ選択肢をやる。」

「選択肢?」

コナンはジンに聞いた。

C a s e 3 : T h e w o r s t d e v e l o p m e n t (後書き)

T h e w o r s t d e v e l o p m e n t

「最悪な展開

評価、感想よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1114e/>

All to the dark

2010年10月10日05時37分発行